

現存最古と
いわれる尊氏像

大分県国東市

豊後安国寺

大分空港から国道213号線を北に向かって約10分、国東市国東町に太陽山安国寺があります。

安国寺は足利尊氏が公が後醍



豊後安国寺

醐天皇の追善供養と国家安寧を祈願し、全国（一国一寺）68ヶ所に建立された寺であり、当山は1394年（応永元年）に豊後の国の安国寺として絶海中津国師を開山に足利尊氏公を開基にして創建された、臨済宗妙心寺派に属する禅刹です。

石段を登ると山門がある、天明4年に再建された鐘楼門です。両脇に石造りの仁王像が鎮座し寺を守っています。

明治39年後藤宗旭師が第30世住職として入山。豊一枚なかった安国寺の再建の基を築きました。

「尊氏公座像」は京都東山の東岩蔵寺（室町將軍家の祈禱所）に収められ、応仁の乱の後、京都山科の地藏寺にもたらされました。明治40年に京都府知事の許可を得て豊後の安国寺に移管され本堂に安置されています。座像は桧材



尊氏公座像

寄木造りで尊氏公存命中の制作といわれ柔和なお顔をしています。足利尊氏の像としては最も古く貴重なものとして平成24年に国の重要文化財に指定されました。

「延命地藏尊立像」は平成6年に大分県の有形文化財に指定されています。この他にも赤穂浪士四十七士にかかわる遺物もあり、大石良雄ゆかりの「おかる」の尼僧像も本堂に安置されています。

